

社会福祉法人良友会 澁川あゆみこども園



園庭は子どもたちが自主的に「遊ぼう！」と思える空間であることが大切です。さらさらの砂や少し粘っこい土、自然の実がなる木、そして水という自然の基本が揃っている環境づくりを目指しました。特に土遊びは単純な泥だんご作りから、水を使った大胆な地形変化や大きな創造物の遊びへと発展しています。日々姿を変える園庭、雨が降っても壊れない建物など毎日が楽しみの連続です。



植栽1年目のアラカシとみかんに実がなりました！



水と土が融合する園庭



水流れ



じゃぶじゃぶ池

石畳を連想させる空間が、水を流すとじゃぶじゃぶ池と水流れ的环境に変わります。築山での土遊び水遊びを組み合わせて、遊びが園庭全体に広がっていきます。



ガチャポンプ

手押しガチャポンプは小さい子にも大人気。テラス下の水溜りや天井からのシャワーによって、暑い日も一機に快適な空間に変わります。

保育の特徴

■ 異年齢保育（個の育ちを見守る）

近年は少子化や外遊びの減少から、子どもたちが年齢や興味を超えて幅広く育つことが少なくなっています。

異年齢保育は同年齢保育に比べ、遊びの幅が広がり、子ども同士の遊びを通して自主性・積極性・自立心・善悪の判断などを肌で感じ取りながら育ちます。年少児は年長児に憧れをもち、意欲をかきたてられ、年長児は年少児に優しく思いやりをもって接するなかで自律の心も育ちます。

■ 乳児担当制保育

乳児にとって、育児をしてくれる保育士が決まっています、やさしい眼差しに見守られ、困ったときに助けられる安心感が情緒の安定につながります。

また、個人差や生活リズムを大切に、部屋の保育士がチーム連携を密に、子どもを待たせない保育を心がけています。担当が変わっても子ども達への保育は同じであることが安心感となります。

■ プロジェクト保育

家・なかま・水・体・衣服・世界など、身近なテーマに沿った環境を用意することで、自然と興味も沸き、遊びを通じた広がりや経験から学ぶ保育です。

「もの決まり・仕組み・働き」を知り、言葉への興味や関心を育てることで、現代っ子の課題である相手にうまく伝える力や表現力、深く考える力を育てます。

■ リズム運動と体幹遊び

「より速く走る、遠くまで投げる」などの体力は就学してからで、乳幼児期には「身のこなしのよさ」「すばしっこさ」が大切です。この運動神経は「動きが育てば身体が育つ」ともいわれ、ほとんどが遺伝ではなく後天的なものです。少しの遅れ、やり方の問題です。

遊びを通して、動きをコントロールする小脳を鍛え、運動が好きになるように意図的に取り組んでいるのが「リズム運動と体幹遊び」です。

リズム音楽や裸足保育と相まって、保育士の指示ではなく、遊ぶ楽しさを大切にしながら取り組める内容となっています。

お部屋の様子

1F

ホール



天吊り遊具等使った運動遊び、発表会や入園式などの行事等、多目的に使える空間です。窓を開けると園庭と一体となります。

ランチルーム



調理中の姿を見て子ども達の会話が弾みます。食育を意識したお話を通して正しい生活習慣が身に付きます。

乳児保育室



乳児担当制保育をしています。個人差や生活のリズムを大切にし、子どもを待たせない保育を心がけています。

テラス



Shibukawa Ayumi Nursery School

2F

幼児保育室



毎月、身近なテーマに沿った環境を用意することで、子ども同士の遊びが広がり、知り得たことを相手に上手に伝える力・深く考える力へとつなげています。



わくわくする空間
えほんのへや



和室



デッキテラス



畳のおいしさを感じながらの落ち着いた空間となっています。

屋上



人工芝の下がマットなので、思いっきり全身を使って遊べます。